

問1 日本最長の河川である信濃川の名称の由来や特徴について説明したものと、最も適切な内容を選びなさい。（2025年 愛媛公立入試 類似）

- かつての令制国名である信濃国に由来し、長野県内では千曲川と呼ばれている。
- 流域面積が日本で最も広く、関東地方から新潟県へと流れている。
- フォッサマグナの西端に沿って流れ、静岡県で太平洋に注いでいる。
- 新潟県にある山脈を水源とし、山形県を経て日本海へと注いでいる。

問2 佐渡島では、鉱山跡の観光活用に加え、農業の「第6次産業化」による地域活性化が進められています。この「第6次産業化」の内容を説明したものと、最も適切なものはどれですか。（2019年 東京都公立入試 類似）

- 農業者が生産（第1次産業）だけでなく、食品加工（第2次産業）や流通・販売（第3次産業）まで一体的に取り組み、付加価値を高めること。
- 農地を工業団地として整備し、最先端の宇宙開発拠点や精密機械工場を誘致して、地域の雇用を創出すること。
- 都市部への人口流出を防ぐため、近隣の都市へ通勤する住民に対して、交通費や住宅費を自治体が全額補助する制度を導入すること。
- 食料自給率を向上させるため、全ての農地を国が管理し、生産された農産物をすべて海外へ輸出する仕組みを作ること。

問3 三重県に位置するある重要港湾は、統計上、輸出額が東京港に次ぐ規模に達しています。この港の輸出特性として、輸出品全体の約4分の1を自動車占め、さらに半導体等製造装置や集積回路、タイヤなどの工業製品を主に中国や韓国へ輸出しているという特徴があります。この港の名称として正しいものを選んでください。（2021年 滋賀公立入試 類似）

- 四日市港
- 名古屋港
- 神戸港
- 北九州港

問4 愛知県の渥美半島は、かつては水不足に悩まされる地域でしたが、ある大規模な用水路が整備されたことで、日本有数の農業地帯へと発展しました。この地域に供給され、施設園芸農業の発展を支えている用水の名称として正しいものはどれですか。（2026年 富山公立入試 類似）

- 豊川用水
- 愛知用水
- 明治用水
- 香川用水

問5 中部地方の各県の統計において、愛知県よりも人口規模が小さく、日本海側に位置する石川県の特徴について述べたものと、正しいものはどれですか。農業産出額の主要品目に着目して答えなさい。（2023年 埼玉県公立入試 類似）

- 米の生産が盛んな地域であるが、産出額の構成において果実も一定の割合を占めている。
- 中部地方で最も人口が少ない県であり、米の産出額が全国で最も高い。
- 内陸部に位置するため、米の生産は行われず、果実の産出額が全体の9割を占めている。
- 愛知県よりも人口が多く、農業産出額のほとんどが畜産によって占められている。

問6 ある県の工業統計を確認すると、製造品出荷額において「輸送用機械器具」が26兆円を超え、圧倒的な規模を誇っています。この県に関する説明として正しいものはどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）

- 中京工業地帯の中核に位置し、自動車の生産額が非常に多い愛知県である。
- 日本海側に位置し、米の産出額が農業全体の約6割を占める新潟県である。
- 内陸部に位置し、涼しい気候を利用して野菜・果実栽培が盛んな長野県である。
- 京浜工業地帯の一部をなし、精密機械の出荷額が国内最大級である長野県である。

問7 富山市における昭和中期から平成にかけての地域変化について、JR富山港線沿線の状況を説明した文として、背景や要因を含めて最も適切なものはどれですか。（2016年 長野県公立入試 類似）

- 通勤や通学の利便性が高い鉄道沿線の土地が需要を増したため、水田だった場所が大規模な住宅地として整備された。
- 富山城址の北東にある市役所の移転に伴い、その周辺の広大な水田がすべて官庁街へと作り替えられた。
- 米の生産過剰を解決するために、政府の主導によって鉄道沿線の水田がすべて工場用地や商業ビル群に転換された。
- 地価の安かった県庁付近の畑地が、人口の過密を解消するために新興住宅地として再開された。

問8 木曾川、長良川、揖斐川の下流に広がる濃尾平野の低湿地帯では、古くから河川の氾濫による水害を防ぐための工夫が行われてきました。集落や耕地の周囲を堤防で囲んだ、この地域特有の仕組みや集落を何と呼びますか。（2022年 秋田県公立入試 類似）

- 輪中（わじゅう）
- 扇状地（せんじょうち）
- カルデラ
- シラス台地

問9 高度経済成長期の日本で発生した四大公害病の一つであるイタイイタイ病について、その被害が深刻化した地域と、汚染の源となった河川の組み合わせとして正しいものを選択してください。（2022年 愛知公立入試 類似）

- 富山県の神通川流域
- 熊本県の水俣湾沿岸
- 三重県の四日市市周辺
- 新潟県の阿賀野川流域

答え合わせ・解説

問1	答え 1 かつての令制国名である信濃国に由来し、長野県内では千曲川と呼ばれている。	信濃川という名称は、新潟県側から見て「信濃国（現在の長野県）から流れてくる川」であることに由来しています。長野県内では「千曲川」という別名で呼ばれることが大きな特徴です。なお、流域面積が日本で最も広いのは利根川、太平洋に注ぐ中部地方の河川には天竜川などがあります。
問2	答え 1 農業者が生産（第1次産業）だけでなく、食品加工（第2次産業）や流通・販売（第3次産業）まで一体的に取り組み、付加価値を高めること。	第6次産業化とは、第1次産業（農業・水産業など）の従事者が、第2次産業（製造・加工）と第3次産業（流通・販売・観光など）を融合させることで、農産物に新たな付加価値を生み出す取り組みです。佐渡島でも、特産品を使った加工品の開発や直売所の運営など、農業を多角化することで地域の所得向上や産業の活性化を図っています。
問3	答え 1 四日市港	三重県の四日市港は、中京工業地帯における重要な物流拠点です。かつては石油化学コンビナートが中心でしたが、現在は高度な技術を用いた半導体関連製品や自動車の輸出が盛んであり、輸出額は全国でもトップクラスに位置しています。特に地理的に近い中国や韓国が主要な貿易相手国となっている点が現代の特色です。
問4	答え 1 豊川用水	渥美半島はもともと大規模な河川がなく水不足に悩まされていましたが、1960年代に豊川用水が完成したことで、安定した農業用水の確保が可能になりました。これにより、温室を利用した施設園芸農業が急速に発展しました。なお、愛知用水は知多半島、明治用水は安城市周辺（西三河平野）を流れる用水です。
問5	答え 1 米の生産が盛んな地域であるが、産出額の構成において果実も一定の割合を占めている。	石川県は中部地方の中で、人口規模では愛知県などの大都市圏を下回りますが、日本海側の気候を活かした農業が展開されています。北陸地方の特徴として稲作（米）の割合が高いことが挙げられますが、石川県においては梨やぶどうといった果実の生産も農業産出額の中で特徴的な位置を占めています。統計を読み取る際は、単に「日本海側＝米」と思い込まず、果実などの他品目との組み合わせに注目することが重要です。
問6	答え 1 中京工業地帯の中核に位置し、自動車の生産額が非常に多い愛知県である。	製造品出荷額のうち輸送用機械が26兆円を超えるというデータは、日本最大の自動車産業の集積地である愛知県の特徴を強く示しています。愛知県は農業においてもキャベツなどの生産が盛んですが、工業の規模が極めて大きいため、米の産出割合が極めて高い新潟県や、野菜・果実の比率が高い長野県といった農業的特徴が強い県との識別の決定打となります。
問7	答え 1 通勤や通学の利便性が高い鉄道沿線の土地が需要を増したため、水田だった場所が大規模な住宅地として整備された。	都市の拡大（スプロール現象や計画的な宅地開発）は、多くの場合、主要な交通網に沿って進行します。JR富山港線沿線において、戦後直後の地形図で「水田」の記号で埋め尽くされていた場所が、平成の地図で「住宅地」を示す網掛けに変わっているのは、鉄道という交通インフラを軸に居住エリアが郊外へと広がったことを示しています。選択肢にある「県庁が畑地にあった」という記述や「市役所の移転」は、このエリアの主たる土地利用変化の直接的な説明には当てはまりません。
問8	答え 1 輪中（わじゅう）	濃尾平野の下流域は海抜が低く、三つの大きな河川が合流・分岐を繰り返すため、古来より洪水が多発する地域でした。住民は自らの居住地や田畑を水害から守るため、集落の周りをぐるりと堤防で囲む「輪中」を形成しました。これは地形的制約を克服するための生活の知恵として知られています。
問9	答え 1 富山県の神通川流域	イタイイタイ病は、富山県の神通川上流にある鉱山から排出されたカドミウムが、下流域の土壌や飲料水を汚染したことで発生しました。四大公害病のうち、熊本県と新潟県では有機水銀による水俣病が発生し、三重県では二酸化硫黄による四日市ぜんそくが発生しました。地域と原因物質、病名の組み合わせを正確に把握しておくことが重要です。